

長中魂



令和 3年10月 18日 (月)

特別号

伊豆の国市立長岡中学校だより

文責 日吉 隆徳

令和3年度 全国学力学習状況調査の結果を受けて

5月に3年生が行った「全国学力・学習状況調査」の主な結果についてお知らせいたします。表は、本校と県、全国の平均正答率を比較した結果です。

【県・全国平均を上回っていれば◎、同じならば○、若干下回っていれば△、下回っていれば▲】

| 科目 | 県平均比較 | 全国平均比較 |
|----|-------|--------|
| 国語 | ▲ | △ |
| 数学 | ◎ | ◎ |

全国及び平均と比べると、国語はやや下回るものの数学では上回っています。両教科とも「無解答」の割合は一部の問題を除き、全国及び県平均と比較しても低く、最後まで解き続ける粘り強さが見られました。

全国学力状況調査から見て取れるのは、5月時点における学力の一部分であり、また、本調査に取り組んだ一人一人の生徒に成果と課題が存在します。この結果に一喜一憂することなく、今後も地道に生徒一人一人の「確かな学力の育成」に努めていきます。

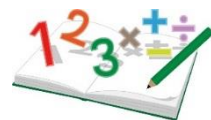


<国語の分析>

- 「話し合いの一部から、発言者の役割や発言内容を捉える」、「物語文における主語を捉える」、「条件に従って文章を書く」問題で、全国及び県の平均を上回っている。
- 「相手にわかりやすく伝わる表現や構成について理解する」、「本文を引用して物語から読み取ったことについて示した上で自分の考えを書く」、「敬語表現」等では、全国及び県の平均を下回っている。
- 特に「意見文の下書きから推敲の意図を読み取る問題」と「敬語表現に関する問題」は正答率が低く、全国及び県平均との差も大きい。
- 複雑な条件に従って文章を書く問題では、無答率が25%を超えている。「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」「封筒の書き方を理解して書く」問題で、全国及び県の平均を上回っている。

<数学の分析>

- 4つの領域のうち、「数と式」「図形」「関数」の3つの領域で、全国平均・静岡県平均を上回っている。特に、図形領域では知識・技能・数学的な見方や考え方を問う全ての問題で、平均を上回っている。
- 基本的な計算技能を問う問題は、大きく平均を上回っている。
- 4つの領域のうち、「資料の活用」の領域は、全国平均・静岡県平均を下回っている。特に「相対度数の必要性と意味を理解する問題」の正答率が低い。このことから、用語の意味やデータ分析の意味の理解度が低いことが分かる。
- 数学的な見方や考え方を問う問題では、正答率は平均を上回っているが、無回答率も平均を上回っている問題がある。このことから、自信がない記述問題にチャレンジできないことが予想される。



【今後の取り組みについて】

<国語>

- ・敬語表現の学習を取り入れ、具体的な場面を設定して指導することで、生活の中で使えるようにします。
- ・文章の構成の工夫や、文と文の関係を意識して正しく読んだり書いたり伝えたりできるような課題を設定し、学習に取り組めるようにします。
- ・条件に従って書く活動や、引用して書く活動を積極的に取り入れ、書くことに抵抗感がなくなるように活動を充実していくようにします。

<数学>

- ・身近な事象や生活場面でのできごとを題材にしたり、新たな関係を見いだすような課題を設定したりすることで、それぞれの言葉の意味や技能をただ覚えるだけではなく、なぜ必要なのか・どんな場面で実際に使われているのかを考え、理解を深めます。
- ・学習課題に対して、自分の考えを持ち、根拠をもって説明する機会を多くもちます。
- ・定着した知識を、様々な問題に応じて適切に答える力を養います。
- ・問題文から情報を抜き出し、整理する機会を多く持ちます。

生徒質問紙の回答状況について

【県・全国平均を上回っていれば◎、同じならば○、若干下回っていれば△、下回っていれば▲】

| 項目 | 県平均比較 | 全国平均比較 |
|------------|-------|--------|
| 学校へ行くのが楽しい | ◎ | ◎ |
| 読書への関心等 | ◎ | ◎ |
| 新聞への関心等 | △ | △ |
| 国語への関心等 | ◎ | ◎ |
| 数学への関心等 | ◎ | ◎ |
| 学習習慣 | ○ | ○ |
| 課題解決への取り組み | ◎ | ◎ |
| 地域活動への関心等 | ◎ | ◎ |
| 規範意識 | ◎ | ◎ |
| 自尊感情 | ◎ | ◎ |
| 生活習慣 | △ | △ |

【分析と今後の取り組みについて】

○学習等への関心について

国語・数学ともに「教科の勉強は大切である」「将来、社会に出たときに役に立つ」と肯定的にとらえている生徒の割合は、全国及び県平均に比べ高い値を示しています。日頃の授業からも、学習における関心は高く、積極的な発言や意欲的な態度も見られています。これは「学校へ行くのが楽しい」と多くの生徒が感じていることにつながっているものと考えられます。また調査では「家庭学習時間」についての質問項目があり、平日、休日ともに2時間以上(3時間以上を含む)家庭学習の時間が確保されている割合が、全国及び県平均に比べ高い値が示されています。「家で自分で計画を立てて学習している」と回答した生徒の割合は、全国及び県平均と同程度であり、与えられた学習だけでなく、より主体的な学習の取組となるよう支援していきたいと思えます。さらに本や新聞等を読むことで、いろいろな分野への情報視野を広げ、世の中の大きな流れを捉えることにつながります。時間を見つけて取り組んでみてください。



○地域活動への関心について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、地域行事が開催されないことが多くなっています。しかしながら、本校生徒の地域活動への関心は全国及び県平均と比較しても高く、これまで培われた郷土愛によるものと思われます。感染が終息し、今後地域活動が開催されたら、長中の生徒は今まで以上に積極的な取組を見せることでしょう。さらに参加するだけでなく、「地域や社会をより良くするために何ができるか」を考えることで、地域における防災意識も高まることを期待しています。

○規範意識について

「携帯電話・スマホ・PCの使い方について家の人と約束を守っていますか」の質問に「きちんと守っている」と回答した生徒の割合は、全国及び県平均と比べ非常に高い値を示しています。「約束を守っていない」と回答した生徒はいませんでした。また「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と思っている生徒は全国及び県平均と同程度の高い値を示しています。これまで、生徒会を中心に「長中魂」を意識して生活しようと全校が一丸となって取り組んでいます。今後も道德教育の充実及び「長中魂」を心の支柱とする生徒であるようにさらに支援していきたいと思えます。

○自尊感情について

「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は、全国及び県平均と比較し高い値を示しています。それに関連して「将来の夢を持っている」「自分で決めたことはやり遂げるようにしている」「失敗を恐れなくて挑戦している」の質問においても全国及び県平均と比較して高い値を示しています。ほめ、認めていくことで「自尊感情」や「自己有用感」が高まります。行事や学級の活動等で生徒の活躍の場を増やし、やり遂げた達成感を味わい、またそれらを価値づけてあげていきたいと思えます。

○生活習慣について

「朝食を毎日食べている」と回答した生徒の割合は全体的に低くはないものの、全国及び県平均と比べると低い値を示しています。また、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」と回答した割合は全国及び県平均と比べやや低い、または同程度の値を示しています。時間の使い方を工夫し、就寝・起床の時間を規則的にすることで睡眠を確保し、また朝食を食べられる時間に起きることができるようになると思われます。今後も保護者の皆さまと連携していきたいと思えます。

